

初めての宮中参賀

1/3/2017

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

この年末年始の天候は大変穏やかで、春3月を思わせる日もありました。慌ただしい年末の一日の気分転換に、町内の人と一緒にゴルフプレーを楽しんできました。プレー内容に満足できた理由のひとつに、冬の「富士山」を一日中観れたことが大きかったと思われました。プレーの合間にシャッターを撮ったものをいただきました(添付)。やはり日本人の富士山信仰のあらわれでしょうか？

秦野カントリーから見る富士(12/28/2016)

さて、年が明け、元旦は我が家での恒例の行事です。

朝、お節の準備ができたところで、先祖への感謝として「仏壇」にお礼の祈りとして手を合わせます。私の祖先は、加賀の国の熱心な浄土真宗(親鸞聖人)信徒です。私は、小さいときから仏壇の横に座って御経を読む父親の横で手を合わせていました。そんな影響で、今でも朝晩は仏壇で拝んでいます。

たまに帰る私の息子も、帰るたびに手を合わせています。毎日の朝御経を唱えていた私の父親から影響を受けたようです。

その後、菩提寺である妻と私の家の墓参りです。私の菩提寺(町田孝養寺)では、「修正会」に参加し、ピアノの伴奏で正月の唄を歌い、和尚さんの新年の法話を聴きます。何か清々しい気持ちになって帰宅となります。その後自宅から徒歩20分のところにある長津田王子神社に初詣です。多くの参拝者で賑わっており階段で待つこと20分程で参拝できましたが、新しい年への気持ちの切り替えができるよい時間となっています。最近の元旦は、このようにして過ごしていますが、以前は父母、そして子供たちと一緒にでしたが、父母は他界し、子ども達も家を離れて住み、今では妻とハル(柴犬)と過ごす落ち着いたものとなりました。



一富士、二鷹、三茄子

今年は、例年の正月に加え、2日目に「宮中参賀」に出かけてきました。天皇陛下の退位のこと話題になっていることで妻が一度参賀に行きたい、また私が最近読んだ「日本の一番長い日」(著:半藤一利)に昭和天皇と軍との終戦の出来事が描かれていたからです。

大変混み合うことは聴いていましたが、今年は例年になく多くの参賀の人で賑わっていたようです。(あとの発表で96,000人)

二重橋駅方面から皇居に入ると、荷物と身体の2回検査があり、その後待つこと約40分。二重橋から、お立ちになる宮殿まで大勢で歩き、宮殿の前に入った直後に、皇族方がテラスにお立ちになりました。遠いこともあり、また旗のなびきで皇族方のお顔より皇族方の衣装の色鮮やかさだけが印象に残りました。また、お言葉は短く、5分間ほどで宮殿テラスを後にされました。

元旦の政務関係者や外国大使等の新年拝謁公務もあり大変でしょうが、一般参賀のように国民に向けたメッセージを発信しておられる天皇陛下の姿が一番よいと思って帰りました。

以上



お言葉が終わったあとに一瞬



出迎えてくれた騎乗女性
(皇宮警察だと思われる)